

JR西労組結成25周年を機に 歴史を振り返り責任ある未来につなげよう!

**JR
WEST
西労組
UNION
ニュース**

**号外
結成25周年特集
No.4
2017.6.10**
JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合
本部 〇三〇二 大阪市北区堂島 二丁目一番八号
TEL 〇六三三 五五九八(代表)
TEL 〇六三三 五五九八(代表)
FAX 〇六三三 五五九八(代表)
JRW(大阪)〇七一一 五五九八
JRW(大阪)〇七一一 五五九八
●発行責任者/宮 野山
●編集責任者/宮 勇市
●馬朗

結成25周年特集(その4)

長期債務負担反対闘争(後編)から 2000年度まで

今号では1998年から、貸金昇進制度の改正、可部線廃止問題への対応や地域活性化運動の推進、旅行業部門であるTIS本部の日本旅行への営業譲渡など、様々な運動を繰り広げてきた2000年度までを振り返ります。1998年7月15日、17日に米子コベンションセンターで開催された第10回定期大会では、真つ只中にあった長期債務追加負担反対闘争や、本格的な職場討議が開始されようとしていた貸金・昇進制度の見直しなどの重要課題について熱心に議論されました。

国鉄清算事業団長期債務追加負担 反対闘争の展開(後編)

JR西労組は、1998年3月11日のJR連合主催の中央総決起集会に続き、4月11日、単組主催による長期債務JR追加負担反対闘争の西日本大追加負担反対闘争の西日本大

反対する与党を含む各党の国会議員12名やJR内外の労働組合の代表も参加し、総勢1700名が結集して怒りと抗議の声を発信しました。私たちの運動が功を奏し、一部与党議員の反対もあつて通常国会で審議に入れない状況が結果的に可決されました。

▲▼総勢1,700名が結集
与野党国会議員をはじめ
JR内外の労組代表も参加した
「怒りの西日本大集会」

※裏面に続く



JR西労組は10月14日付朝日新聞「論壇」に橋本書記長による「旧国鉄債務のJR負担は不当とする主張を掲載する」と、最後まで反対の意思を示しましたが、最終的に10月15日に参議院でも修正案通り可決され、10月22日に法律が施行されました。

「新たな貸金昇進制度」への改正

「2001年ビジョン」の提言に基づく初の本格的な企画提案運動の取り組みとして、鉄道業にふさわしい公正で働きがいの持てる貸金昇進制度への見直しについて、1997年12月に合同勉強会が設置され、労使の具体的な検討がスタートしました。

降、第1次の職場討議資料や具体的な解説を掲載した政策機関誌「Say-Cho」を基に、職制等級制度昇進昇格、人事考課、基本給カーブ、諸手当などの課題について、現状の問題点や目指すべき方向を提起し、職場討議を開始しました。そして、集約された意見を基に経営協議会を開催して検討を深め、翌1999年2月からは第2次の職場討議を展開し、会社に新制度の設計などに関する提言を申し入れました。

1998年4月に会社が可部線の一部区間(可部～三段峡、46.2キロ)の廃止バス転換を検討している旨の新聞報道がありました。9月には、利用が減少し鉄道の役割を果たしていないことなどを理由に、会社は方針を正式に表明しました。

可部線一部廃止への対応と 地域活性化運動の展開

1998年4月に会社が可部線の一部区間(可部～三段峡、46.2キロ)の廃止バス転換を検討している旨の新聞報道がありました。9月には、利用が減少し鉄道の役割を果たしていないことなどを理由に、会社は方針を正式に表明しました。

論壇



旧国鉄債務のJR負担は不当

JR西労組 橋本書記長による主張を掲載した、朝日新聞「論壇」(1998年10月14日)



JR連合・JR西労組による国会前座り込み闘争

西労組の提言の反映状況を示して第3次の職場討議を進めるとともに、並行して労使交渉を開催してきました。

JR総連は新制度に反対し
西労支援の総行動を実施
JR総連・西労は、労使の合同勉強会への参加を拒否して制度改正に反対していましたが、1999年9月2日、4日、JR総連は西労を支援するとして、東労組をはじめ単組の組合員約1,100名を全国から動員し、西日本各地の本社支社や職場前などでヒラ配りやストライキで最後まで闘うぞ!といったシュプレコールなどの抗議行動を行いました。

わがわがJR西日本やJR東海を利用せず移動した模様であり、交通費や宿泊費など組合費から相当な経費が使われたとみられます。訳もわからず動員された若手も多く、「ヒラ配りの模様を写真に撮られる」という嫌だ!とヒラを投げ捨て、JR総連の責任者に詰め寄る場面もありました。後述の通り、この年の11月、西労は山陽新幹線のトンネルで発生したコンクリート落下事故の発生を理由にストライキを敢行しましたが、こうした無責任な運動によって組合員の減少は加速し、彼らの異常性がさらに際立っていきました。

(裏面へ続く)